

会議概要書

会議の名称	第1回 通学等検討委員会
日 時	令和3年10月28日（木）午後6時～7時10分
会 場	市役所 庁議室
出席者	市教委：荒井教育長、三原課長、一本木課長補佐、松倉課長補佐、渡辺主任（中山職務代理者、仲原教育委員、甘利教育委員、下川教育委員）7名 委員：9名（準備委員会委員長）1名
次 第	1 開 会 2 教育長あいさつ 3 通学等検討委員会の所掌事務について 4 座長の選出について <u>座 長 小日向 勲</u> 5 会議事項 （1）通学方法について 6 その他 7 閉 会
主な意見等	<p>【通学方法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一中1年保護者にアンケートを実施したが、通学方法に関心が高い。徒歩・自転車・バス等どうなるのか。距離が遠くなり、通ったことがない通学路に不安を感じる。夏は自転車だが、冬はどうなるのか。自動車での送迎が多くなる。車の混雑やスペースは。子どもの意見を聞いてほしい。 ・自転車通学の範囲の違いは ⇒ 学校ごと違う。理由は不明。判断基準は一緒にした方がよい。 ・バス到着が始業直前ということがある。本数が増やせないか。またバス通で乗車時間が長く、自転車や徒歩で通学した方がよいという話もある。 ・タクシー通学があるようですが ⇒ スクールバスの帰りが2便ある。早いバスは北小と一緒に（水曜日の利用）。ほとんどは遅いバスを利用。タクシー利用は、部活で遅くなるなどスクールバスに乗れない場合。 ・バス通は、距離は近いが経路で乗車時間が長くなる生徒がいるので、1年ごと経路を変えている（一中のみ）。 ・道のりで通学方法を決めるのがよいのではないか。 ・自転車通学の冬場の対応でバスを利用しているものもある。 ・自転車通学の範囲が一中と仁中で異なる。 ・通学距離2kmを歩いたが遠かった。短い方がよい。 ・仁中も距離（自転車通学）が変われば、若干混乱はあるかもしれないが、再編で新校になるので一緒にする方がよい。

- ・自転車の置き場も考えて決めた方がよい。
- ◎徒歩・自転車の範囲を直線 1.5 km (道のり 2 km) で円を地図に描き、シミュレーションし、次回お示しする。併せて生徒の分布もお示しする。
- ・ふれあい号はフリー区間があるが ⇒ スクールバスは子どもたちが安全に乗降できるように場所を設定している。
- ・バス通学の範囲で、自転車通学も可能とすることはできるか ⇒ 部活などの理由で例外が一部ある。
- ・電車通学は、現在の範囲を基本。
- ・木崎駅周辺は電車通学でどうか ⇒ スクールバスの範囲は、電車かバスかになると思う。
- ・保護者の送迎も実際には多い。
- ・バスの範囲でも、経路によって通学時間が長くなる場合には、自転車通学とか、自転車より電車の方が早い場合には電車を利用できるとか、選択できるような自由度 (家庭事情により対応) があるとよい。
- ・保護者は安全対策に関心が高いので、安全の観点から選択できる考え方も必要ではないか。
- ・通学費用 (電車・バス) の負担は ⇒ 公費負担。